

農業



平成30年10月号

会誌 No. 1643

目次

巻頭言

ごはんを食べよう国民運動 20年のあゆみ……………林 良博 3

論 壇

サツマイモは福島県農業の救世主になりうるか……………小巻 克巳 4

農業懇話会

平成29年度食料・農業・農村白書の概要……………小山内 司 6

質疑応答…………… 20

表彰農家訪問

栽培技術の確立と農地集積による全国有数の

大規模ハトムギ作経営を展開……………平岩 進 23

－富山県小矢部市に和田俊信さんを訪ねて－

研究の最前線

畜産系有機排水を安定して浄化する伏流式

人工湿地ろ過システム……………加藤 邦彦 33

－有機資源の循環利用と水環境保全の両立に向けて－

農業・農村の現場から

シメジの生産・加工で、女性の経営・社会参画……………澤野 久美 42
-福岡県三潴郡大木町 農事組合法人モア・ハウス-

世界の農業は今

EUにおける農業環境政策……………浅井 真康 48

私の経営と志

日本一アグレッシブな農家を目指す……………土屋 梓 53

世界学生サミット

新世紀の食と農と環境を考える 世界学生サミット……………東京農業大学 55

統計情報

平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況…………… 58

農政情報

…………… 59
大日本農会だより…………… 60

ミニ情報

地理的表示保護制度(GI)に基づき登録された特定農林水産物 (14) …… 59

表紙写真説明

ダリアの新品種育成 (秋田県秋田市雄和^{ゆうわみょうほう}妙法)

秋田空港から雄物川沿いに車で10分ほど行った秋田市雄和妙法に秋田国際ダリア園があります。園内には世界14か国から集められた6万本のダリアが咲き、開園期間の8月中旬から11月上旬に花の見頃を迎えます。

本誌3月号で紹介しました、ダリア園の会長、鷺澤幸治氏は園内の一角と車で20分ほど離れた圃場を使い、ダリア品種の育成と球根の生産・販売を行っています。従来、ダリアは花壇用として利用されていましたが、鷺澤氏は切り花用として必要な花持ち性や施設栽培に適した多くの品種を育成し、生産農家の所得向上に貢献しています。

秋田県では鷺澤氏と共同開発したオリジナル品種を「NAMAHAGEダリア」とネーミングし、夏季冷涼な気候を活かした、発色が良好な高品質のダリアを消費者に届けています。

(編集部)